

令和6年度 第3回 北九州市社会教育委員会議

日時 令和7年2月10日（月） 10:00～12:00

場所 北九州市立生涯学習総合センター2階 第2・3研修室

1 総務市民局地域・人づくり部長挨拶

2 議長挨拶

3 議題

（1）国における社会教育・生涯学習の方向性、論点等について [資料1]

演題：「社会教育」をどう考え、実践するのか

ー社会の転換点と社会教育の新たな位置づけー

講師：東京大学大学院 教育学研究科 教授 牧野 篤 氏

（2）次期北九州市生涯学習推進計画について

[資料2]

資料1

国における社会教育・生涯学習の
方向性、論点等について

「社会教育」をどう考え、実践するのか

—社会の転換点と社会教育の新たな位置づけ—

牧野 篤

(東京大学大学院教育学研究科)

2024年6月25日

**中央教育審議会 総会
生涯学習分科会 審議の整理
社会教育人材部会 最終まとめ**

**文部科学大臣より「社会教育の在り方」諮問
「地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について」**

地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について（諮問）

* 社会情勢の変化

- 社会教育法制定から75年が経過。人口減少・少子化の深刻化・地域コミュニティの希薄化、DX化、グローバル化の進展により将来の予測が困難な時代に。学校・社会の複雑化・困難化した課題の解決、人生100年時代、共生社会、「こどもまんなか」社会の実現に向けた対応が必要。
- 高校や大学等の進学率の高まりや様々な学習機会の増加など、社会教育に求められる役割やニーズが変化。

◎第4期教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）

- 「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を総括的な基本方針とし、将来の予測困難な時代における教育の方向性を示す総合計画を作成。
- 社会教育による「学び」を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、協力し合える関係づくりの土壌を耕しておくことで、持続的な地域コミュニティの基盤を形成することが求められる。
- 社会教育の拠点として 社会教育施設の機能強化や、社会教育主事・社会教育士等の 社会教育人材の養成及び活躍促進等を通じた社会教育の充実を図る必要。

◎第12期中央教育審議会生涯学習分科会

- 【議論の整理～一人ひとりが主体的に学び続ける生涯学習とそれを支える社会教育の未来への展開；リカレント教育の推進と社会教育人材の養成活躍のあり方～】（令和6年6月）
- 重点的に議論した事項：社会人のリカレント教育、障害者の生涯学習、外国人の日本語学習、社会教育人材
 - 障害者や外国人などの社会的包摂の観点も含めた社会教育の提供が十分に確保されることが不可欠
 - 社会教育の裾野が広がる中、地域コミュニティの基盤を支えるために 社会教育人材は重要な役割を担っており、その質的向上・量的拡大に向けた養成及び活躍促進の在り方を提示

◎社会教育人材部会

- 【社会教育人材の養成及び活躍促進の在り方について（最終まとめ）】（令和6年6月）
- 調査審議事項：社会教育人材の養成及び社会教育士の活躍機会の拡充に関する専門的な調査審議を行うこと

これらの方向性を土台とし、社会の変化を踏まえつつ施策の更なる深化を図るべく、社会教育の新たな在り方を見つめ直し、社会教育が果たすべき役割、担い手である人材、その活動、国・地方公共団体における推進方策等について検討が必要

令和6年6月25日中央教育審議会総会

地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について（諮問）

【主な審議事項】

①社会教育人材を中核とした社会教育の推進方策

（社会教育人材を中核とした目指すべき社会教育の在り方、社会教育主事・社会教育士の役割・位置付けの明確化、社会教育主事・社会教育士の養成の在り方等）

②社会教育活動の推進方策

（地域と学校の連携・協働の更なる推進方策、公民館、図書館、博物館等における社会教育活動の推進方策、青少年教育施設等における青少年体験活動の推進方策、地域コミュニティに関する首長部局の施策や多様な主体が担う活動との連携・振興方策、共生社会の実現に向けた障害者・外国人等を含めた社会教育の推進方策等）

③国・地方公共団体における社会教育の推進体制等の在り方

（社会教育を総合的に推進するための国・地方公共団体の体制の在り方、社会情勢の変化を踏まえた社会教育に関する現行法令の在り方等）

1. 何が問われているのか

Well-being (ウェル・ビーイング) :

よりよく生きる？ (positive)

よりよくいる？ (存在)

よく在る？ (状態)

そう在るようにして在る (常態)

そう在るようにして在らしめられる (passive)
そう在るように受け入れあう

「ふるさと」をどうつくるのか



コロナ禍で起こった「恩送り」

地域の高齢者を心配して布マスクを縫って届けた中学生たち

校区の子どもたちのために布マスクを縫って配付した高齢者住民たち

⇐互いに相手を慮って、うれしかった！！

Compassion

Compassionate Community

共感

基本はPassion=悲しみ・苦しみ

Con(Com)=分かちあう

**Compassionとは悲しみを分かちあうこと
相手の身になること**

Well-being :

**Compassionが基本となって
「よき存在」となること**

**「よき存在」とは
社会の中にあって
他者を自分事化して
「よきこと」をする存在
＝当事者性を持って生きること**

**Well-beingな個人が持続可能な社会を生みだしていく
個人のWell-beingと社会のWell-beingは「よき存在」として
一つになる**

「恩送り」：自分への見返りを考えずに、相手にとって「よきこと」をする
↳基本的に、次の世代を育むこと＝社会をつなげること

私たちが社会をつくっていることの基盤

Compassion

⇒Compassionate Community (苦しみ・悲しみを分かちあう社会)

相手への想像力、「よきこと」に気づく、実践する

2. 主題化される「Well-being」と社会教育

新・教育振興基本計画（2023年度～2027年度）

基本的考え方

「教育こそが、社会を牽引する駆動力の中核を担う営み」
「一人一人の豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展を実現するために、
教育の果たす役割はますます大きくなっている」

総括的基本方針

「持続可能な社会の創り手の育成」
「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」

社会教育の役割

「地域において人々の関係を共感的・協調的なものとするためには、社会教育による「学び」を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、協力し合える関係としての土壌を耕しておくことが求められる。こうして形成された地域の人々の関係は持続的な地域コミュニティの基盤となり、ひいては社会全体の基盤となる。「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環が生み出されることにより、地域コミュニティにおける個人と地域全体のウェルビーイングの向上がもたらされる。地域で人と人とのつながりを作り、協調的な幸福感を紡ごうと取り組んでいる人たちが自信と誇りを持つことができるようにしていく必要がある。」

個人のwell-being

社会のwell-being

二つのウェルビーイング(well-being)を実現する

**社会のウェルビーイングが個人のウェルビーイングを保障し、
個人のウェルビーイングが社会のウェルビーイングを豊かにする**

⇐社会教育の役割

Well-being :

**Compassionが基本となって
「よき存在」となること**

**「よき存在」とは
社会の中にあって
他者を自分事化して
「よきこと」をする存在
＝当事者性を持って生きること**

**Well-beingな個人が持続可能な社会を生みだしていく
個人のWell-beingと社会のWell-beingは「よき存在」として
一つになる**

3. 社会教育の概念を問う

社会教育という概念：

学校教育との対比によって規定されてきた

社会教育は、歴史的に学校教育との対比において、
学校教育の「補足」「拡張」「代位」「以外」、さらに「移行」などと
発達形態が規定され、
また現行の社会教育法第2条には
「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、
主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動
（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう」と規定されている。



個人の要望と社会の要請が前面化して、社会において行われる教育とされる

第4期教育振興基本計画（2023年6月閣議決定）

基本コンセプト：

「持続可能な社会の創り手の育成」

「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」

**「我が国の将来を展望したとき、
教育こそが社会をけん引する駆動力の中核を担う営みであり、
一人一人の豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展に向けて
極めて重要な役割を有している。」**

社会教育は、
本計画において、
改めて地域コミュニティを基盤とする社会の土台である
人と人との「かかわり」や「つながり」の土壌を耕しておく
という役割が強調され、
それが社会の持続可能性およびウェルビーイングと
結びつけられている

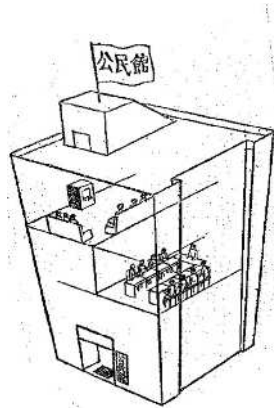
社会教育が土壌を耕すことで、
この社会が豊かな基盤をつくることになり、
それが防災や福祉、産業振興、文化交流など、
いわば首長部局の一般行政が有効に機能することにもつながることが指摘

少し踏み込んだいい方をすれば、
一般行政の社会教育化とでも呼ぶべき方向性が示されている

「学び」による住民自治を
社会により深く実装することが求められる時代となったとの認識

4. 地域をつくる公民館・社会教育

民主的社会教育機関です

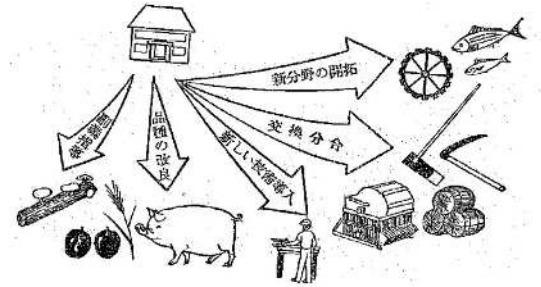


村の茶の間です

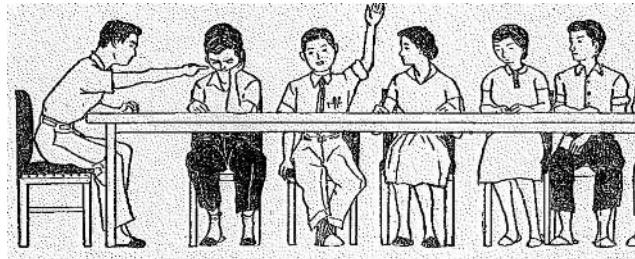
親睦交友を深める施設です



産業振興の原動力です

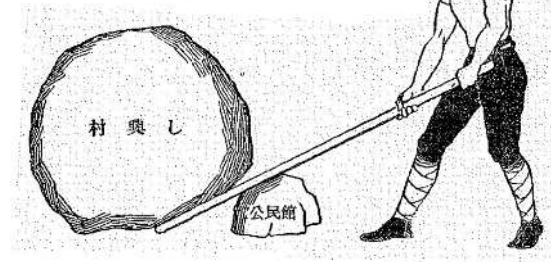
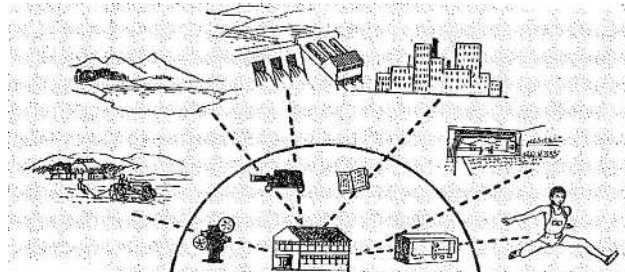


民主主義の訓練場です



郷土振興の機関です

文化交流の場です



小和田武紀『公民館図説』(1954年)より：文部科学省提供資料

社会教育に「目的」はない

社会教育がしっかりしていると、「目的」が生まれる

一般行政は、社会教育の基盤の上で、有効に機能する

敢えていえば、
社会教育は「社会」を永続させるための営み

5. 学校制度を持つ社会（近代産業社会）の特徴

学校は、所有欲求によって
経済の拡大再生産を促進するための
労働力と消費者の育成＝市場社会の拡大のための
人材（国民）育成のためのシステム

「量」の経済の時代の「労働力」「購買力」育成システム



一寸子花里 文学ばんだいの宝

<https://ja.wikipedia.org/wiki/寺子屋>



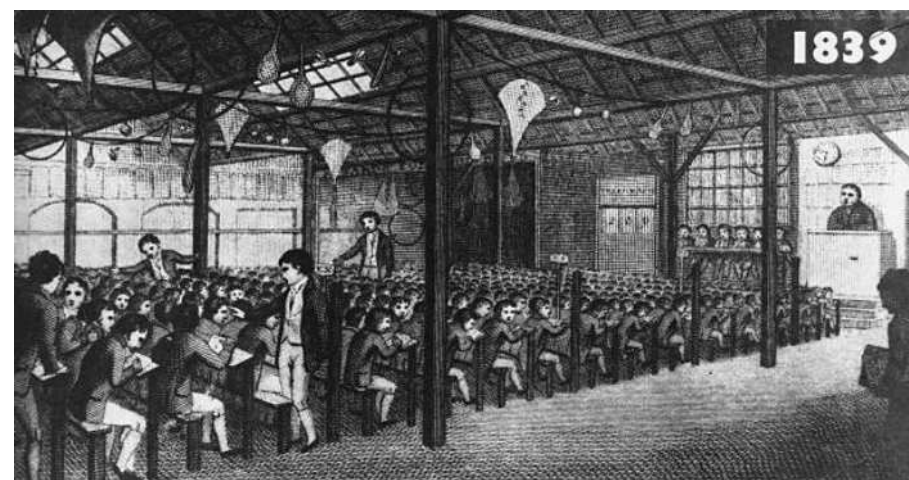
現在の小学校の教室

<http://www.ritsumei.ac.jp/primary/life/day/>



1908年(明治41年)の教室風景

https://shibusawakeizo.jp/history/files/img_1903.html



近代イギリスのランカスター教授法のクラス
(monitorial class)

<https://ameblo.jp/sophiainu/entry-12414187239.html>

空間・時間の均質化

人間の均質化

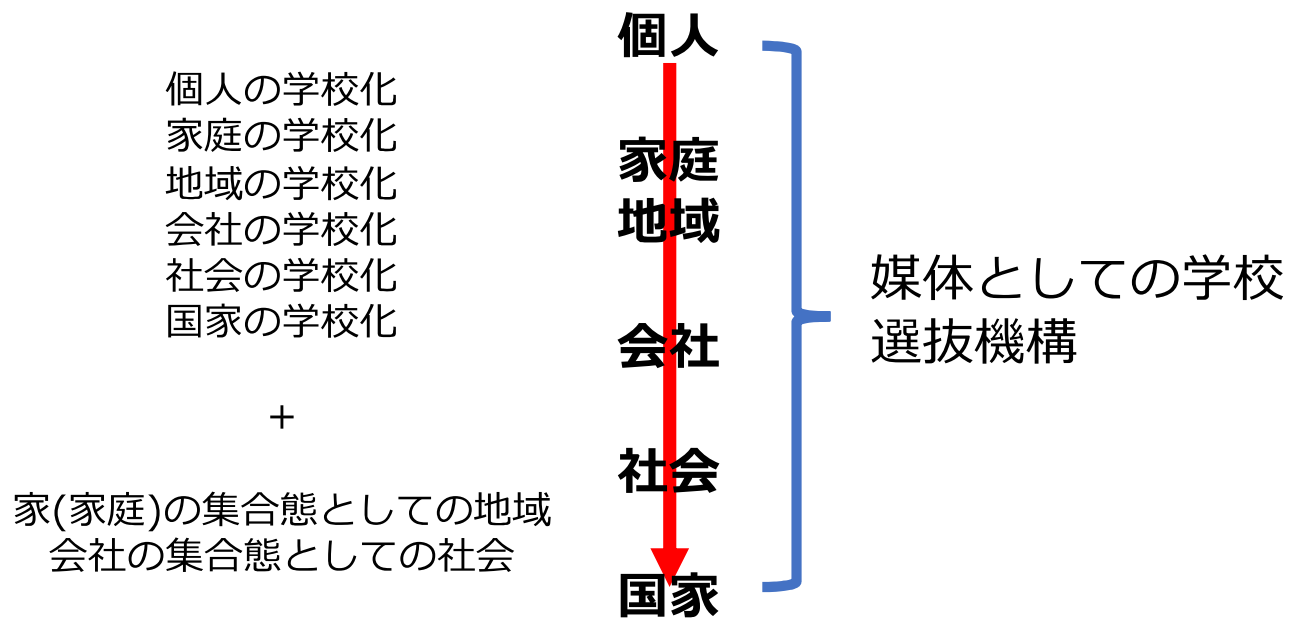
社会の均質化

⇒ 「均質」だから「平等」が社会の原理となる

量

量差

代替可能性



時間と空間
生産と消費

人間観
価値観
社会観

「均質」と「平等」



貨幣による交換市場を普遍化する



人間一般（標準型）の成立

「自由」



「異常」の排除へ

「均質」「平等」「自由」が差別をつくる

6. 転換点の社会

危機：crisis = 岐路

危機の時代には、未知の大海に向けて「希望」を描く「勇気」が必要

希望へのビジョンが「危機の時代」の痛みを耐えさせる

だが．．．．．

いまや、**根源的危機の時代**へと立ち至ってしまったのでは？

天文学的には、50億年後には地球は消滅し、

また数か月後に天体衝突で人類が絶滅する可能性はある。

しかし、今世紀末（100年後）には人類は、過去に経験したことがないほどの過酷な環境で生きることが余儀なくされる。どれくらい過酷な状況になるかは、現在の我々がとる態度次第である（天文学者・岡村定矩東大名誉教授）

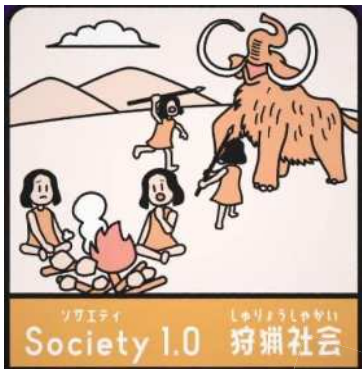
（神野直彦氏提供資料[人生100年社会デザイン財団フォーラム20230510]参照）

内在的危機が外在的危機を呼び寄せ、増幅し、加速する

Rapid social change

社会の変化のスピードが速くなっている

旧石器時代
1 万年以上前



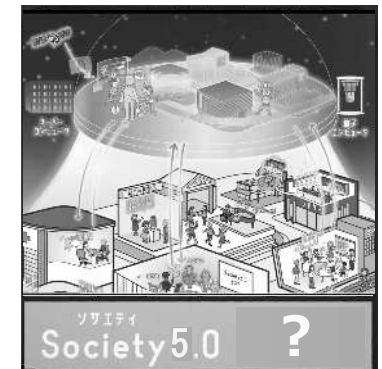
平安時代
1000年前



明治時代
150年前



現代
2020年



10000
years

1000
years

150
years

10
years?

人間が大人になるまでの
期間より短い

岩岡寛人・(一社)ディレクトフォース・シンポジウム資料(20230726)より

コミュニティと「学び」が焦点に

**⇐日本社会は明治以降、国の枠組みが動揺すると
コミュニティが政策的ターゲットになる**

総務省：地域運営組織・地域生活総合支援サービス

厚生労働省：地域包括ケアシステム・地域共生社会づくり・孤独孤立防止

国土交通省：国土強靱化・防災訓練・孤独孤立防止

まち・ひと・しごと創生会議：小さな拠点

経済産業省：未来の教室、半径50センチ革命、STEAMライブラリー

農林水産省：農村地域づくり事業体

文部科学省：コミュニティ・スクール、地域学校協働活動、GIGAスクール

全国社会福祉協議会：福祉教育から社会教育へ

政府：人生100年時代構想会議

主要テーマ：学び直し・リカレント教育

世界的課題・社会の構造的変化

根源的危機の時代：内在的危機が外在的危機を招き寄せ、増幅し、加速する

これを人々の日常生活で引き受けざるを得ない

⇒地域社会でどう受け止めるのか

コミュニティと自立が課題化

どれも〈学び〉を基盤にしないと機能しない
〈学び〉が社会の基盤となる

7. 人生100年時代の到来

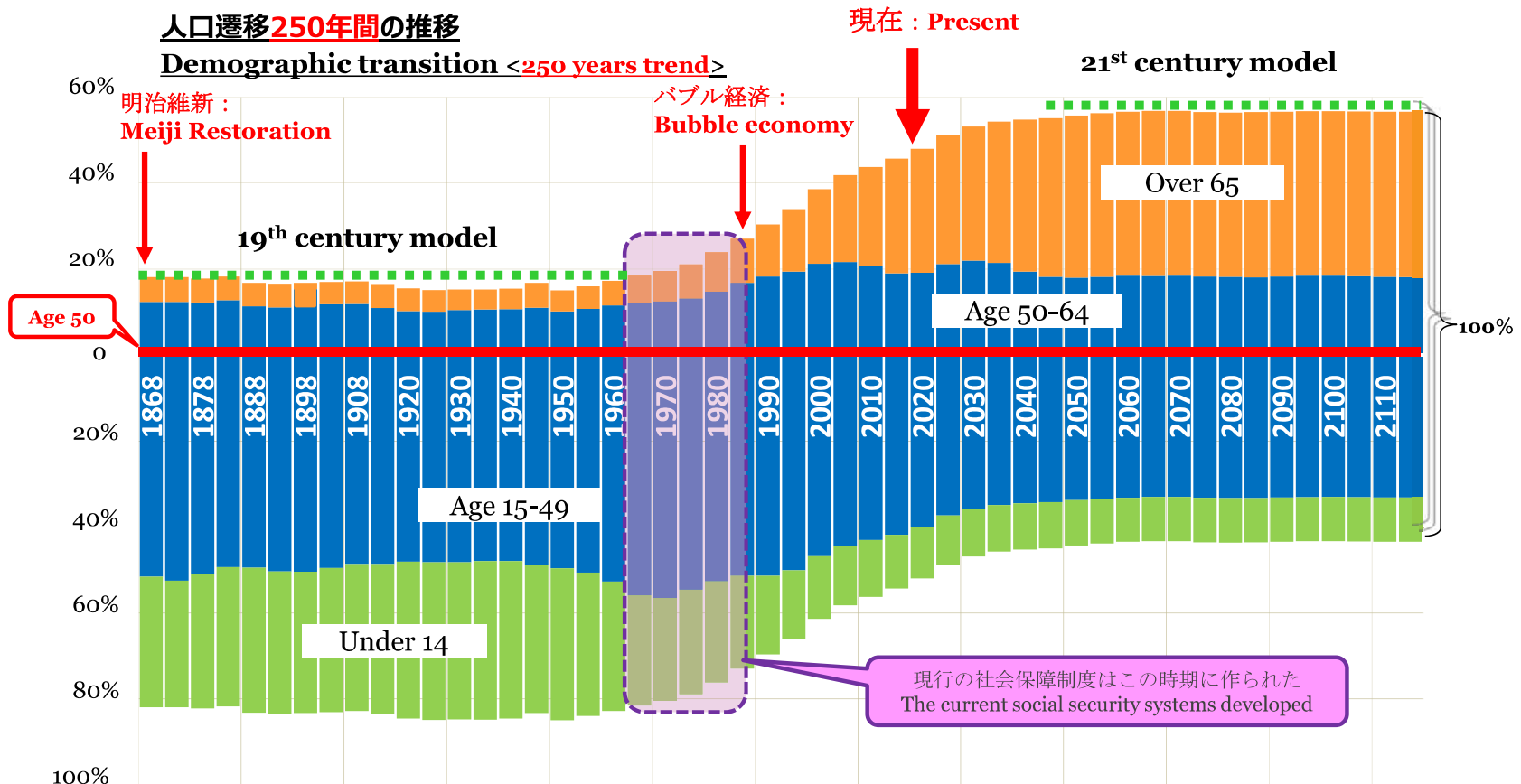
2007年生まれの子どもたちの予測平均寿命=107歳

日本人の平均寿命=男性：81歳 女性：87歳
最頻死亡年齢=男性：87歳 女性93歳

健康寿命=世界で最も長い

人口構造の遷移 Japan's demographic structure & transition

- There has been a **major shift in the population structure** from the 19th to the 21st century.
- It will be **impossible** to maintain the **social security systems** established in 1960-80s.



Source: Sensus, Okazaki estimate, National Institute of Population and Social Security Research 2017 estimate

© T Hasegawa RIFH. Japan

UN Estimate2017

8. VUCAの（予測困難な）時代：承認欲求の時代

これまでの「問題」「課題」解決や目標設定を目的とする社会

⇒「問題」「課題」がズラされて、新しい価値をへと転換し続ける社会

例) ホームレスへの対応

**物質的な支援・就労支援から、関係性の「かかわり」へ
ホームレスの社会空間における位置づけの変化が
新しいまちの人と人とのつながりをつくる**

⇒変化し続け、達成のない社会

達成ではなく、持続が目的となる社会

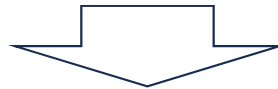
⇒所有欲求から存在欲求・承認欲求への転換

存在欲求の時代へ

いまだに所有欲求の時代の価値観で問題を立てていないか？

目標達成ではなく、持続そのものが目的となる
PDCA等のバックキャストではなく
むしろ、AAR

一方向の拡大・増大ではなく、多方向への拡散・展開
所有ではなく、存在



常にプロセスにある社会へ
予測困難

存在欲求の時代へ

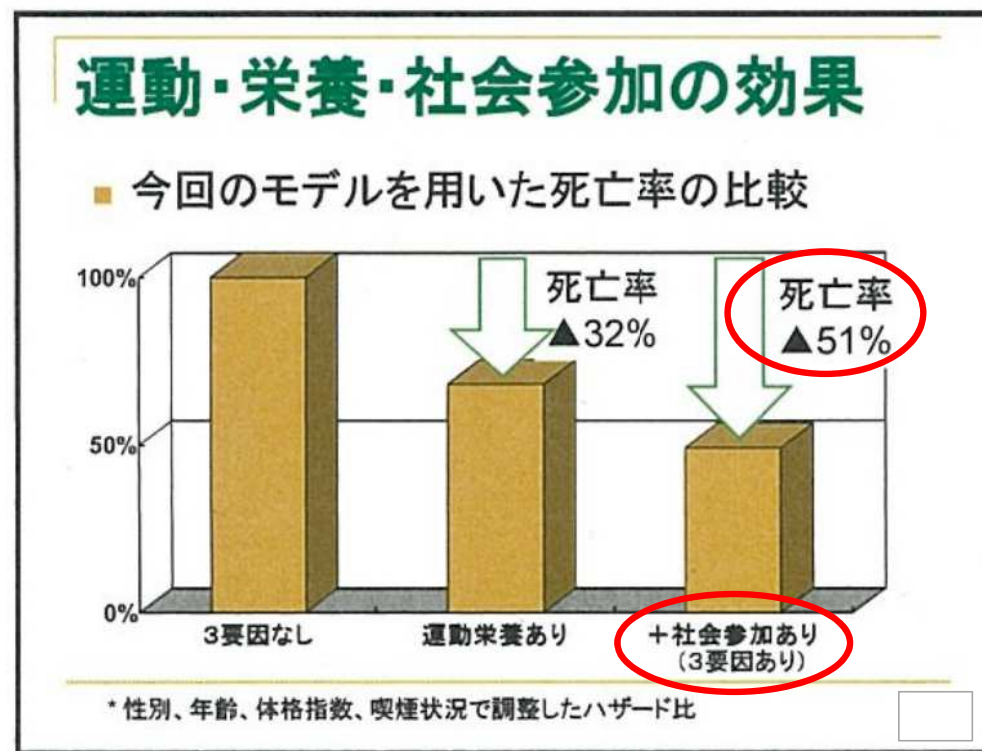
いまだに所有欲求の時代の価値観で問題を立てていないか？

9. 「かかわり」が大切な社会へ

静岡県高齢者コホート研究

【高齢者14,001人の追跡結果】

○運動・栄養について良い習慣を持つこと、更に**社会参加**により死亡率が大幅に低下



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」
2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他

高齢者の認知能力の加齢に伴う変化

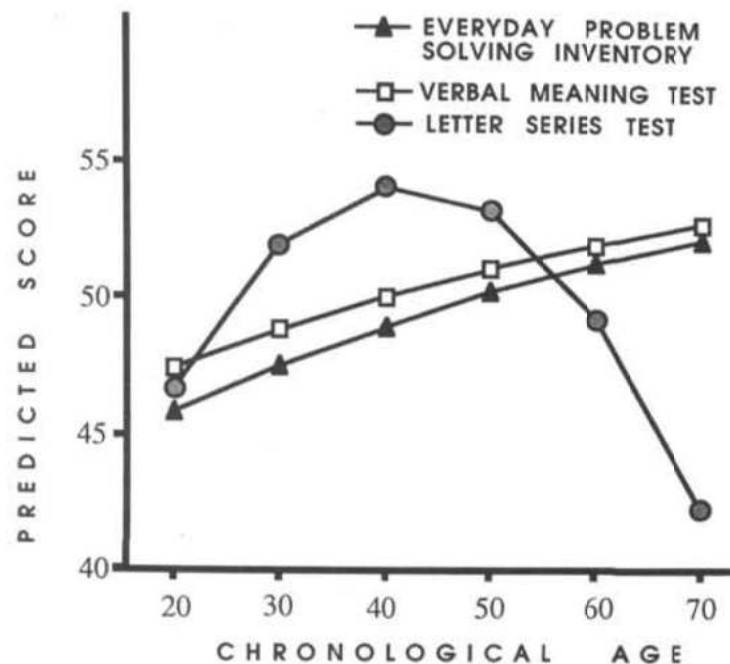


Figure 1. Regression lines displaying predicted levels of performance on ability tests as a function of chronological age. (Ability performance is measured in standardized T scores [$M = 50$, $SD = 10$].)

短期記憶は低下する

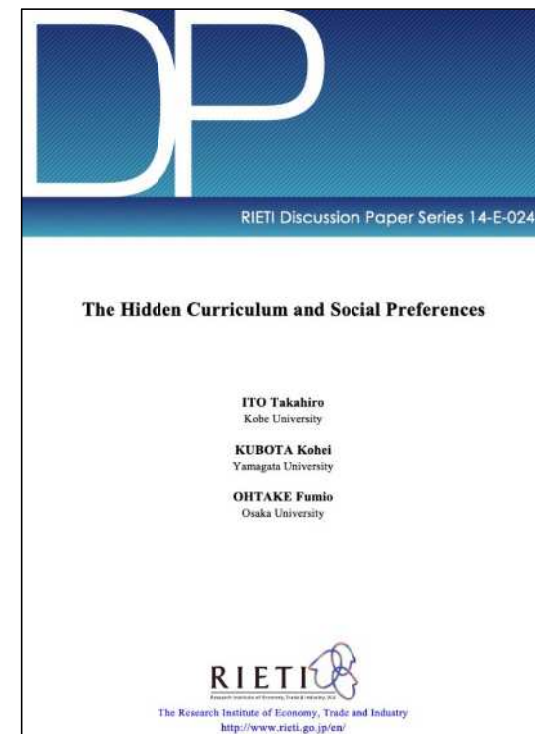
言語能力と日常生活問題解決能力は
伸び続ける

言語能力と問題解決能力は
人間関係に依存する

Cornelius, S. W., and Caspi, A., 'Everyday problem solving in adulthood and old age', *Psychology and Aging*, Vol2(2), Jun1987, p.150 Figure1

小学生時代にボランティアなどの
経験を積んだ者は社会貢献意識が高まる

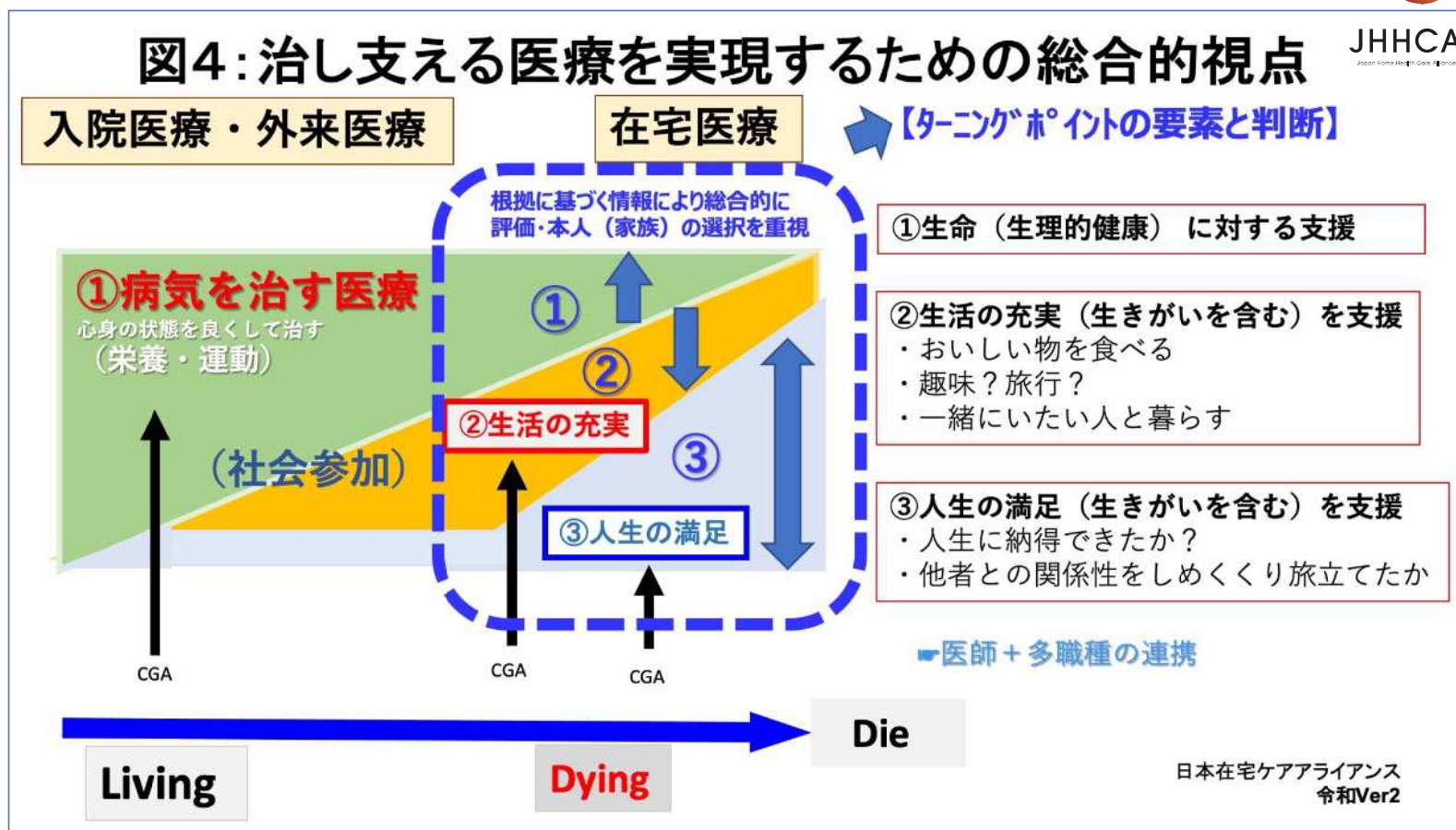
参加・協力を経験した子どもは、
他者のために行動することを好み、
利他性と互惠性が高まり、
他人への協力を好み、
国への誇りを持つようになる傾向がある



大切な「社会的処方」



JHHCA
Japan Home Health Care Alliance



武田俊彦「人生100年時代の医療と暮らし～いのちといきがいと人生～」、
（一財）人生100年社会デザイン財団デザインフォーラム、20220316資料より

10. 人は何が大切なのか

当事者性・プライドが
ものをいう

つながり



当事者性

プライド

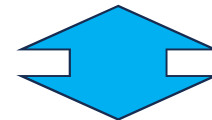
自己有用感



サービス（お客様扱い）は
当事者性・プライド・自己有用感
＝生きる意欲
を奪う暴力



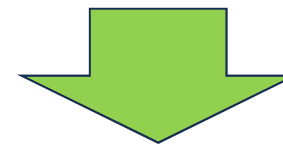
問題は事件が起こる前に
起きてしまっている
それが後から露わになる



自己発見・新しい自分

Well-being

（幸せを感じられる状態にある）



問題が起こらない社会

芸術・文化そのものの効能
コミュニティ形成や維持
直接的な有用性

⇒人々を結びつける
生きる意欲
互いに尊重しあう

芸術・文化の本当の力
(平田オリザさんの話)

公共財・つながり・共通善



恩送り



社会的処方
(居場所・出番)



芸術・文化による社会的包摂



社会の基盤を「耕す」社会教育

人はともに寄り添うことで
コミュニティを保ち続けることができる

コミュニティはcompassionの「関係」

11. 生涯学習の歴史概観

生涯教育から生涯学習へ

生涯教育：1960年代半ば以降にOECDやユネスコから導入

**ポール・ラングラン（ユネスコ成人教育部長）
第3回成人教育推進国際委員会（パリ・1965年）**

⇒「生涯教育」概念を提唱

OECD リカレント教育-生涯教育論

**パルメ（スウェーデン教育大臣）
：リカレント教育提唱（1969年）**

**OECD（1973年）
：「リカレント教育：生涯教育のための戦略」報告書**

人生にかかわる様々な領域の政策と密接に連携する必要

**社会保障・経済・労働・文化など
社会政策・社会構造の組み換えと
リカレント教育は密接に連携すべき**

⇒人の生活のあり方を変える

社会教育審議会（1971年）答申

「急激な社会構造の変化に対処する社会教育の在り方について」

- * 日本で初めて、公的な立場で生涯教育に言及**
- * 生涯教育の観点から家庭教育・学校教育・
社会教育の見直し必要**
- ⇒ 乳幼児から高齢者までの人生のそれぞれの
段階の社会教育の課題を提起**

**中央教育審議会（1981年）答申
「生涯教育について」**

- * 生涯教育・生涯学習の概念を定義**
- * 生涯学習：国民一人一人が充実した人生を送ることをめざして、
生涯にわたって行う学習**
- * 生涯教育：それを支援するために、
教育制度全体が生涯教育の考え方に立つべき**
- * 生涯教育とは、政策・制度が拠って立つべき考え方と条件整備**

ラングランからジェルピへ

**ジェルピ：ユネスコ成人教育部長
（1972年にラングランの後任として）**

**生涯教育を提唱
ラングランの生涯教育論が
社会変化への適応を中心に説かれているのに対して**

**ジェルピの生涯教育論は、
「自己決定学習」を中心に構成
社会的弱者集団へのまなざし
抑圧しているものに対する闘争へと展開するもの**

臨時教育審議会（1984-87）

生涯教育を生涯学習へと統一

- * 工業社会は過ぎ去り、情報社会・大衆消費社会へと大きな転換期を迎えた**
- * 画一・平等から個別・自由へと価値観と制度を組み換え**
- * 日本という国の持つ文化への帰属を強化**
- * 個性を煽り、一人ひとりの多様な価値を創造する**
- * そのための学び続ける力の涵養が求められる**

⇒「生涯学習社会」の建設を提言

**中央教育審議会（1990年）答申
「生涯学習の基盤整備について」**

**生涯学習：生活・職業上の向上や自己充実をめざし、
自発的意思に基づいて行うことが基本**

**生涯学習推進の留意点と基盤整備のあり方提示
あくまで、個人の必要にもとづく学習を支援する**

生涯学習審議会（1992年）答申

「今後の社会の動向に対する生涯学習の振興方策について」

*** 生涯学習社会：**

人々が生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学べることができ、その成果が社会で適切に評価される社会

*** 家庭、学校、行政など各界各層に対して、生涯学習振興に向けての取り組みを呼びかけ**

教育基本法全面改定（2006年）

*** 第3条：生涯学習の理念 新設**

第三条(生涯学習の理念)

**国民一人一人が、自己の人格を磨き、
豊かな人生を送れることができるよう に、
その生涯にわたって、あらゆる機会に、
あらゆる場所において学習するこ とができ、
その成果を適切に生かすことのできる
社会の実現が図られなければならない。**

*** 家庭教育（第10条）・社会教育（第12条）
・ 家庭・学校・地域の連携協力（第13条）
が規定**

**中央教育審議会（2008年）答申
「新しい時代を切り拓く生涯学習方策」**

*** 「知の循環型社会」提言**

*** 「国民一人一人の生涯を通じた学習の支援(国民の学ぶ意欲を支える)」と「社会全体の教育力の向上(学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり)」を方策の二本柱**

12. 総合行政としての生涯学習

—政府の戦略・政策—

自由民主党

2016年2月：財政再建特命委員会

2020年以降の経済財政構想小委員会

⇒「ルールからの解放 ― 22世紀へ

人口減少を強みに変える、

新たな社会モデルを目指して ―」

2017年4月：人生100年時代の制度設計特命委員会

2017年9月：人生100年時代戦略本部

2017年10月：自民党政務調査会

⇒「人生100年時代・全世代型社会保障への転換
～2020年以降を見据えて～」

首相官邸

2017年9月：人生100年時代構想会議
↳ **「人づくり革命」政策**

2018年6月：「人づくり革命基本構想」

人生100年時代構想会議の4議題：

1.全ての人に開かれた教育機会の確保、負担軽減、無償化、何歳になっても学び直しができるリカレント教育

2.これらの課題に対応した高等教育改革

3.新卒一括採用だけでない企業の人材採用の多元化、そして多様な形の高齢者雇用

4.これまでの若年者・学生、成人・勤労者、退職した高齢者という3つのステージを前提に、高齢者向け給付が中心となっている社会保障制度を全世代型社会保障へ改革していく

新しい資本主義実現会議(2021年)

**分配による分厚い中間層の創出
リスクリング・リカレント教育重視
学び直し重視**

第4期教育振興基本計画（2023年6月閣議決定）

基本コンセプト：

「持続可能な社会の創り手の育成」

「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」

**「我が国の将来を展望したとき、
教育こそが社会をけん引する駆動力の中核を担う営みであり、
一人一人の豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展に向けて
極めて重要な役割を有している。」**

「地域において人々の関係を共感的・協調的なものとするためには、
社会教育による「学び」を通じて

人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、

協力し合える関係としての土壌を耕しておくことが求められる。

こうして形成された地域の人々の関係は

持続的な地域コミュニティの基盤となり、

ひいては社会全体の基盤となる。

「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環が生み出されることにより、
地域コミュニティにおける個人と

地域全体のウェルビーイングの向上がもたらされる。

地域で人と人とのつながりを作り、

協調的な幸福感を紡ごうと取り組んでいる人たちが

自信と誇りを持つことができるようにしていく必要がある。」

「社会教育は、地域住民が共に学ぶものであり、
地域コミュニティ形成の営みという性格を強く有している。
近年、防災、福祉、産業振興、文化交流など、
広義のまちづくり・地域づくりに関する
多様な行政分野において、その地域課題の解決に向けて、
関係省庁が地域コミュニティに関する政策を提示している。
これらの政策は地域コミュニティが維持されていてこそ
機能するものであり、
社会教育の役割が重要となる。」

社会教育は、
本計画において、
改めて地域コミュニティを基盤とする社会の土台である
人と人との「かかわり」や「つながり」の土壌を耕しておく
という役割が強調され、
それが社会の持続可能性およびウェルビーイングと
結びつけられている

社会教育が土壌を耕すことで、
この社会が豊かな基盤をつくることになり、
それが防災や福祉、産業振興、文化交流など、
いわば首長部局の一般行政が有効に機能することにもつながることが指摘

少し踏み込んだいい方をすれば、
一般行政の社会教育化とでも呼ぶべき方向性が示されている

「学び」による住民自治を
社会により深く実装することが求められる時代となったとの認識

13. 焦点化される地域コミュニティと教育改革

コミュニティと「学び」が焦点に

**⇐日本社会は明治以降、国の枠組みが動揺すると
コミュニティが政策的ターゲットになる**

総務省：地域運営組織・地域生活総合支援サービス

厚生労働省：地域包括ケアシステム・地域共生社会づくり・孤独孤立防止

国土交通省：国土強靱化・防災訓練・孤独孤立防止

まち・ひと・しごと創生会議：小さな拠点

経済産業省：未来の教室、半径50センチ革命、STEAMライブラリー

農林水産省：農村地域づくり事業体

文部科学省：コミュニティ・スクール、地域学校協働活動、GIGAスクール

全国社会福祉協議会：福祉教育から社会教育へ

政府：人生100年時代構想会議

主要テーマ：学び直し・リカレント教育

**「社会に開かれた教育課程」と「地域学校協働活動」
子どもの成長を軸に、学校を核に、地域総がかりで
コミュニティ・スクールとアクティブ・ラーニング
(2015年)**



**「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた
社会教育の振興方策について」(諮問) (2018年)**

**社会教育施設の所管についての検討
一般部局への特例的移管 (答申) (2018年)**

社会に開かれた教育課程
(2015年8月中教審教育課程企画特別部会)

コミュニティ・スクール
2015年中教審答申

*** アクティブラーニング**
(教員資質向上答申)

*** チーム学校**
(チーム学校答申)

*** 地域学校協働活動・本部**
(地域学校協働答申)

社会教育の固有性はどこにあるのか

私たちが社会として生き延びること

次世代育成

相互承認・自己肯定

⇒一般行政を超越する
(一般行政に優位している)

村の茶の間です

親睦交友を深める施設です



14. 「ふるさと」をつくる社会教育

脱工業社会の学力（地域と学校で養成する学力）

共生・生成・変化のための学力

=人を目的とする学力

⇒ ふるさとをつくり支える学力

⇒ 自立と承認と自治の学力

⇒ ひとを固有性として見なす学力

認知症高齢者数：

2012年に462万人

高齢者に占める割合15パーセント

予測では

2025年に730万人、20.6パーセント

2060年には1154万人、34.3パーセント

総人口の13パーセントを占める

MUFG「認知症の現状と将来推計」、

<https://www.tr.mufg.jp/shisan/mamori/dementia/>(2019年9月9日閲覧)

厚生労働省オレンジプランの推計

社会教育に「目的」はない

社会教育がしっかりしていると、社会に「目的」が生まれる

一般行政は、社会教育の基盤の上で、有効に機能する

**敢えていえば、
社会教育は「社会」を永続させるための営み**

15. 改めて公民館とは、社会教育とは

社会教育に（特定の）「目的」はない（といってもよいのでは？）

社会教育がしっかりしていると、社会に（それぞれの）「目的」が生まれる

一般行政は、社会教育の基盤の上で、有効に機能する

社会教育は「社会」を永続させるための人々の関係を「耕す」営み
⇒これを〈学び〉と呼びたい

社会教育：生きるを支える⇒共生（ともに生きる・平等・社会）

生涯学習：生きるを励ます⇒多様性（個別性・一生涯・個人）

⇒ 生きるをともにする〈社会〉 ⇒ 持続可能な社会の実現

一般行政に教育的なものを浸透させる

一般行政に社会教育・生涯学習を浸透させる

さらに学校教育と連携協働 ⇨ 次世代育成

**⇨人々が共生する新しい社会へ
社会の持続可能性を高める = SDGs**

公民館のウイングを拡げる

公民館「的なもの」も活用する

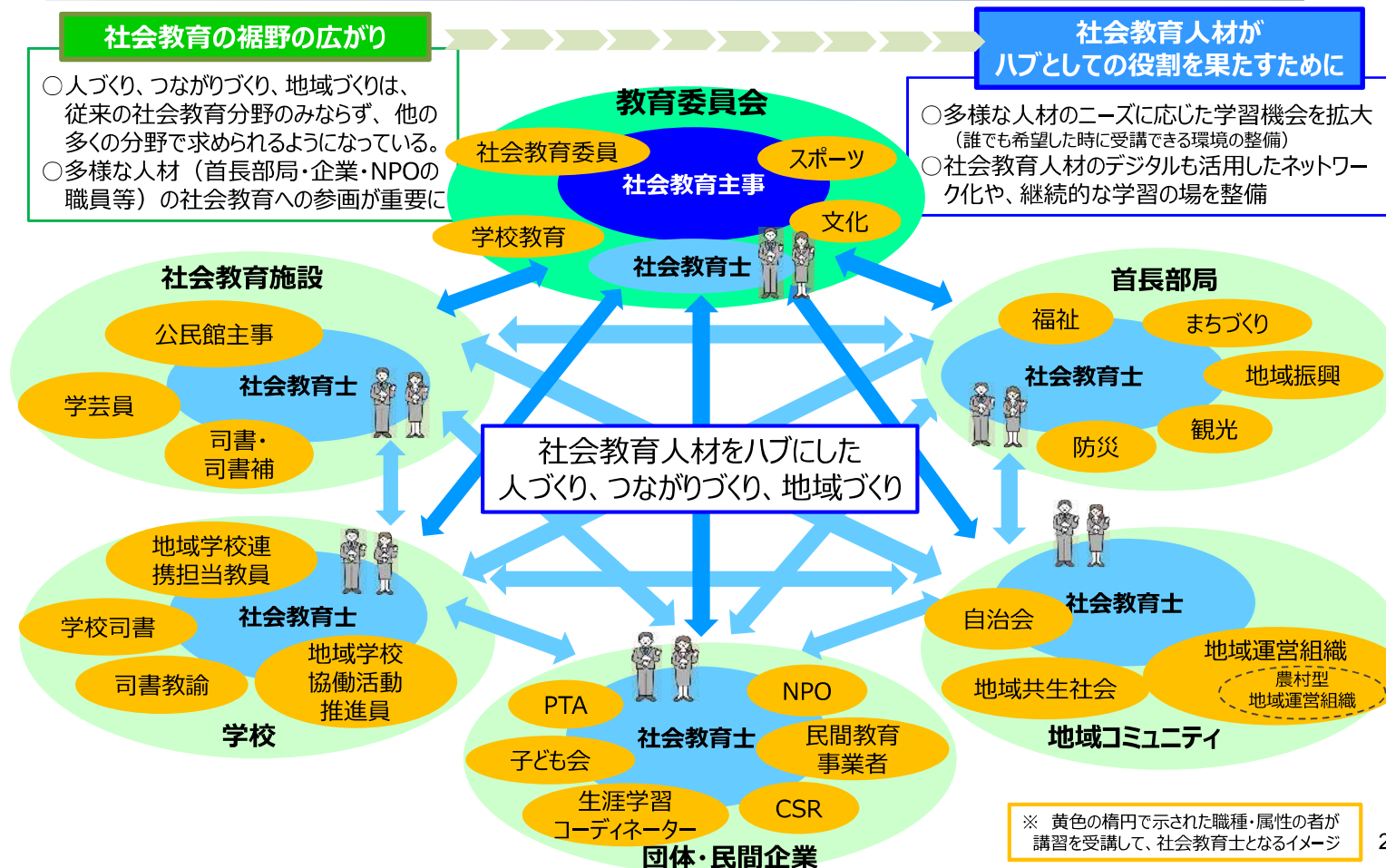
住民自身が活用することで、
施設も社会も「学び」化する

「学び」で社会をつくりなおす

⇒ ちいさな〈社会〉をたくさんつくる
地域づくりの舞台に

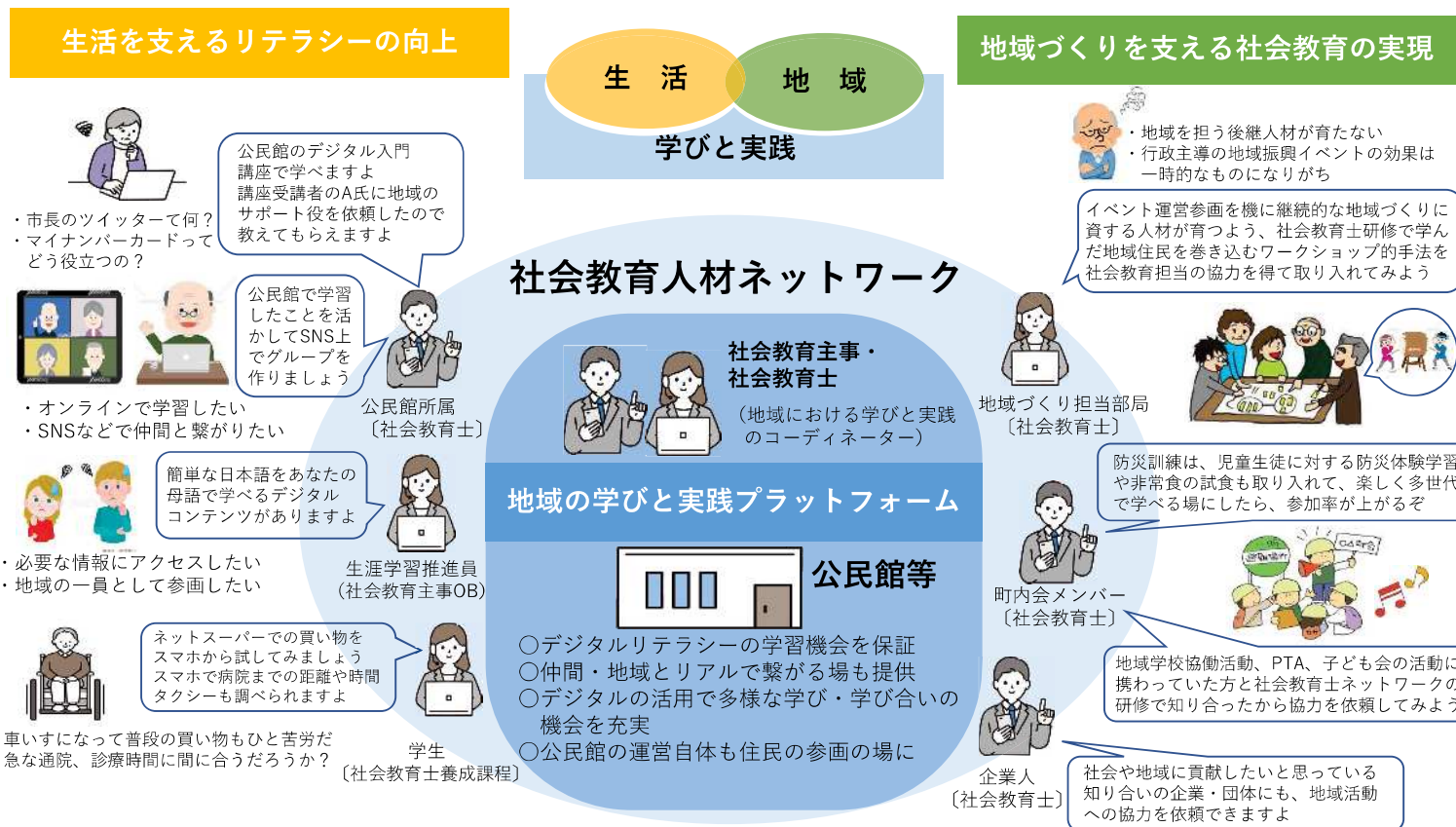
16. 社会教育主事・社会教育士の新たな役割

社会教育の裾野の広がり、社会教育人材が果たすべき役割



「今後の生涯学習・社会教育の振興方策（重点事項・具体策）について」（第12期中央教育審議会生涯学習分科会社会教育人材部会第1回部会20230526資料）

地域の学びと実践プラットフォーム（イメージ図：地域づくりに役立つ社会教育）



**社会教育主事：様々な行政領域と社会教育(行政)を結ぶ
「地域社会全体のオーガナイザー」**

**社会教育士：それぞれの専門分野において、
社会教育的な手法を用いて活動を展開する
「専門性を様々な場に生かす学びのオーガナイザー」**

第12期生涯学習審議会社会教育人材部会「中間的まとめ」(2023年8月)

17. 自治を耕す社会教育・公民館

長野県竜丘村（現・長野県飯田市竜丘地区）の公民館報はその第1号でつぎのように述べている。

「公民館には特定の役者も演出家も用意されていない。舞台装置も演出家も何もかも一切合財皆がやるのだ。そして観客は一人も居ないのである。そういうのが公民館であろう。面白い芝居を観ようとするのではなく、よい芝居を演じようとするのである。そして一人ひとりが皆揃って千両役者や偉大な演出家になろうとするのである。公民館には観客は一人も居ないのである。」

橋本玄進「みんなの公民館」『竜丘村公民館』第1号、1948年3月1日

誰もが主役、誰もが担い手

**⇒自治を耕し、自治を担う
＝リーダーフルな地域社会へ**

18. Be-ingであることでDo-erになる

人生100年時代: おとなも子どもも学び続ける社会へ

**⇒ 「よきこと」に気づき、実践する
「かかわりあい」が公共財となる社会へ**

**「ふるさと」とは「ひと」: おとなが子どもにかかわることで
子どもはおとなを「ふるさと」にする
おとなが「ふるさと」になった故郷
= 本当の「ふるさと」**

Be-ing であることで Do-er になる

一人ひとりが
「よきこと」をつなげ、
「よき存在」になる〈社会〉へ

**人生100年時代を生きぬく
「学び続ける実践」を**

次期
北九州市生涯学習推進計画
について

令和7年2月10日 令和6年度 第3回北九州市社会教育委員会議

次期生涯学習推進計画策定に向けたワークショップ

グループワークの流れ <50分間>

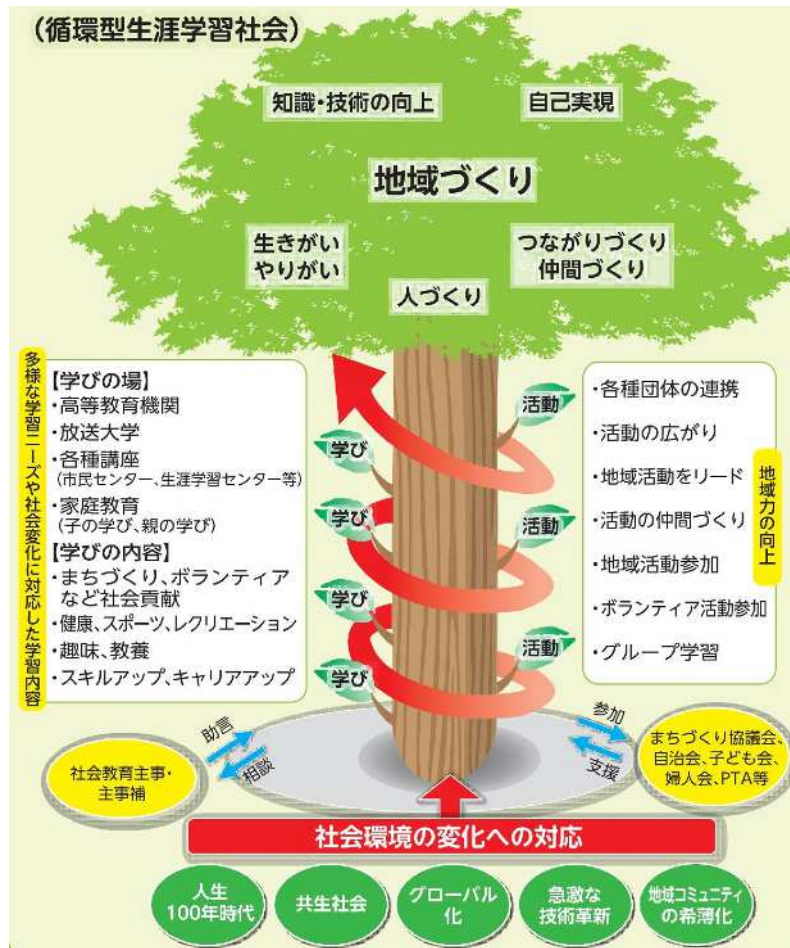
- ・3グループに分かれて、以下の流れでグループワークを実施します。
- ・グループワークを通じて、次期生涯学習推進計画のゴールイメージを共有します。
- ・グループ内の進行・進行補佐は社会教育主事が務めます。

No.	項目	内 容 等	時間
1	生涯学習課説明	前回のGWの共有、本日のGWの説明	5分
2	ワーク	①個人ワーク 4つのテーマについて、まずは個人で考え記入します。（10分） ②グループ共有 各委員等から4つのテーマについてグループ内で共有します。（20分）	30分
3	キーワードの共有	各グループの進行担当の社会教育主事から各グループで出た意見を全体共有します。（各5分）	15分

グループワーク(GW)のグループ分け・役割分担

グループ	社会教育委員等	司会・補佐 (社会教育主事)
第1グループ	野依委員 酒井委員 和田委員 羽田野委員 地域・人づくり部 倉光部長	司会：鎌田 補佐：土田
第2グループ	山田委員 大河内委員 山中委員 生涯学習課 千々和課長	司会：樋上 補佐：前田
第3グループ	宮本委員 安部委員 高原委員 生涯学習総合センター 石井所長 八幡西生涯学習総合センター 白鳥所長	司会：小野田 補佐：山本

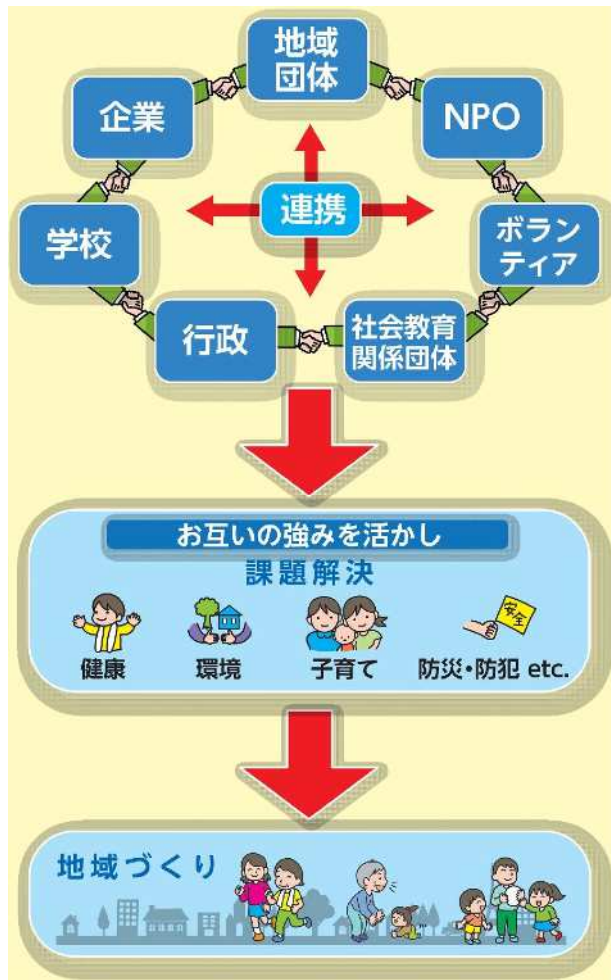
現行計画がめざす社会



1. 循環型生涯学習社会

市民一人一人が、
生涯にわたるあらゆる段階や場面において、
自分に適した手段・方法を選択し
主体的に学習に取り組む
学んだ成果を行動に生かす人が
地域社会に多く存在する社会

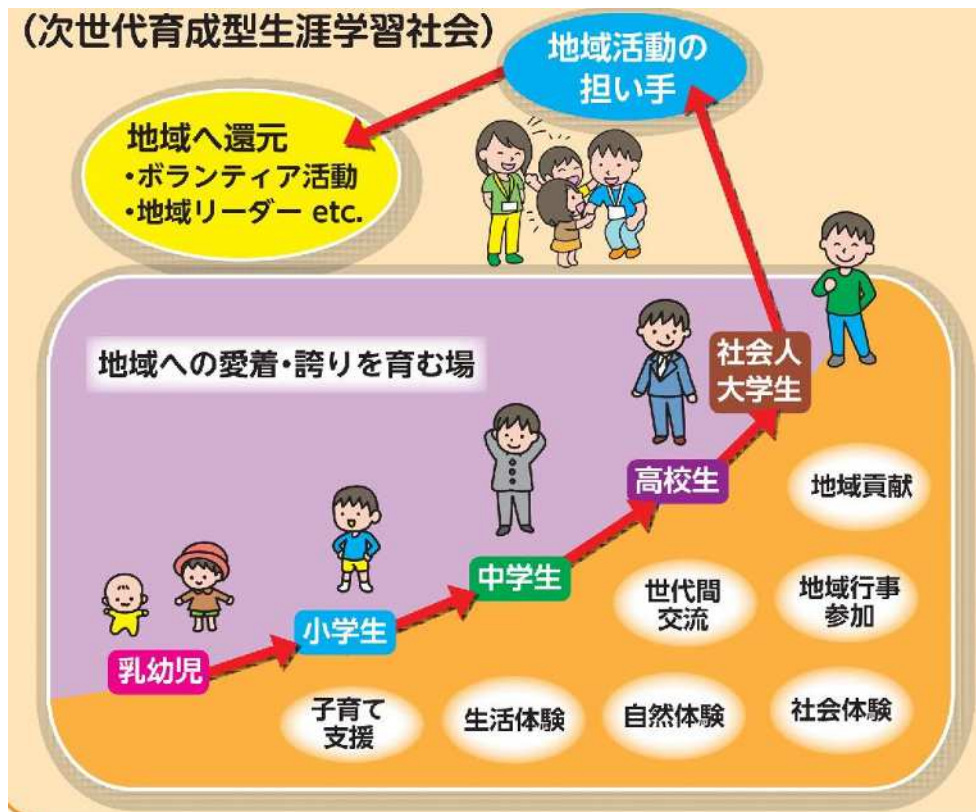
現行計画がめざす社会



2. ネットワーク型生涯学習社会

地域が抱えている課題に対応するため、行政だけでなく、自治会・まちづくり協議会などの地域団体、社会教育関係団体、学校、NPO、ボランティア、企業などの地域社会の様々な組織が、それぞれの強みを生かしながら、共に支えあい・高め合うネットワークが形成され、地域の活力が高まった社会

現行計画がめざす社会



3. 次世代育成型生涯学習社会

地域の様々な市民や団体が継続的に
子どもの健やかな成長・発達に関わり、
子どもと大人がともに学び・支え合い・高め合う。
子供たちが安心して活動できる
居場所づくりを進め、
これからの時代に必要な力や
地域への愛着・誇りを子どもたちに育む。
そうした環境の中で子どもたちが
将来の地域の担い手となる社会

<グループワーク>

前回のグループワークで出されたキーワードや牧野先生の講演を参考にして、社会教育・生涯学習を推進した未来を想像しましょう。

(1) (一人の学習者の視点から) あなたはどうなっていますか？

一人の学習者の視点から、あなたがどうなっているかイメージして考えてください。

(2) “一人ひとり” がどうなっていますか？

(1) から視野を広げて、市民一人ひとりがどうなっているかイメージして考えてください。

「一人ひとり」の部分は、「子どもたちが」「高齢者が」「子育て中の保護者が」といった具体的な人たちに置き換えていただいても構いません。

(3) “地域社会 ” がどうなっていますか？

“地域社会” は、市民センター単位や校区をイメージして考えてください。

(4) “北九州市” がどうなっていますか？

(2) (3) により北九州市がどうなっているかイメージしてください。

2024,11,7 R6年度 第2回社会教育委員会議 グループワーク キーワード一覧

分 野	キーワード			
社 会	<u>○寛容</u> <u>○協働</u> <u>○不安を話せる・SOSを出せる</u> ○地方自治 ○DXデジタルの推進 ○少子化	<u>○ウェルビーイング</u> <u>○ジェンダー平等</u> ○共助 ○働き方改革 ○生活に時間的・精神的余裕を	<u>○レジリエンス</u> <u>○市民参画・社会参加</u> ○地域での女性の活躍 ○防災 ○すべての働く人に社会保険を	<u>○多様性</u> ○共感 ○地域福祉
学 び	<u>○リスキリング</u> <u>○メダカの学校（学び合い、互いに教え・教えられる）</u> ○家庭教育			<u>○リカレント教育</u> <u>○地域教育</u> ○公教育の在り方（学習の場） ○再就職支援
学びで重視するもの	<u>○対話</u> ○デジタルとリアル融合	<u>○アウトプット・実践</u> ○企画力を鍛える	○コミュニケーション	
学びを伝える	<u>○広報活動</u>		○SNS発信	
こども	<u>○子どもの活動・体験</u> <u>○子どもを通じたつながり</u>	<u>○探求心を育む</u> ○こどもまんなか	<u>○子どもの体験格差解消</u>	
シニア	<u>○シニア世代の地域デビュー</u>		○健康づくり	
多世代	○多世代居場所	○地域人材の育成	○多世代を混ぜる	
分野別	○北九州の特徴を生かした芸術の活動		○生涯スポーツ	

※太字・下線のキーワードは複数のグループで出たもの。

前回のグループワークで出されたキーワードや牧野先生の講演を参考にして、社会教育・生涯学習を推進した未来を想像しましょう。

(1) (一人の学習者の視点から) あなたはどうなっていますか？

一人の学習者の視点から、あなたがどうなっているかイメージして考えてください。

(2) “一人ひとり” がどうなっていますか？

(1) から視野を広げて、市民一人ひとりがどうなっているかイメージして考えてください。

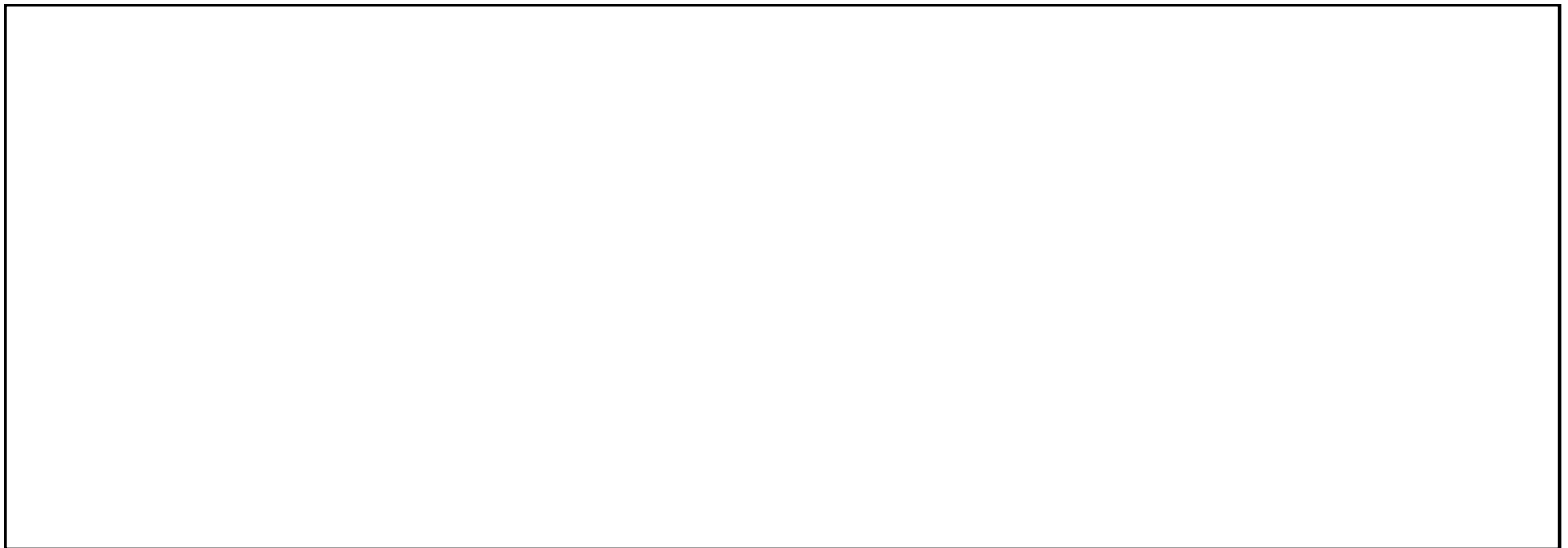
「一人ひとり」の部分は、「子どもたちが」「高齢者が」「子育て中の保護者が」といった具体的な人たちに置き換えていただいても構いません。

(3) “地域社会 ” がどうなっていますか？

“地域社会” は、市民センター単位や校区をイメージして考えてください。

(4) “北九州市”がどうなっていますか？

(2) (3) により北九州市がどうなっているかイメージしてください。

A large empty rectangular box with a black border, intended for a drawing or written response. It occupies the lower half of the page.